

## 「プラナリアをもらったら」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

6年生の男の子が、プラナリアを3匹くれた。コイツとは、高校の時の生物実習以来の御対面で、何か嬉しくなってしまった。小さな管ビンの中で、結構活発に動き回っている。虫めがねで見ると、ちゃんと眼が2個あって、何ともユーモラスな顔をしている。



### 「プラナリアの頭部」

寄り目をしていて、何となくかわいい。

プラナリアは扁形動物に属し、もらったのは、そのうち「ナミウズムシ」という種類だ。もし頭部に眼がなければ、ただの気持ち悪い生き物なのだが、「寄り眼」のおかげで人気者になっている。



### 「翌朝のプラナリア」

驚いたことに、勝手に分裂して殖えていた。

プラナリアの最大の特徴は、切断すると再生して殖えることである。2つに切ると、片方からは頭、もう片方からは尾が再生して、じきに2匹になる。立に切れ目を入れると、頭部が2つある個体もできる。私はもらったプラナリア3匹を、小さなシャーレに入れて、そのまま帰宅した。翌朝見て驚いた。勝手に分裂して、6匹になっている。しかも顔のない、尾の部分も普通に動き回っている。「こんなのアリ?」と思った。

餌は動物質のもの、特に鶏や豚のレバーを好むとわかったので、豚レバーの小片を与えてみた。豚レバーは生のままでは切りにくいが、冷凍しておくで、簡単に小片にできる。これも驚いたことに、シャーレの端に置いた直後に頭のあるプラナリアも、ないプラナリアも一斉にむらがって、食べはじめた。



### 「豚レバーに集まるプラナリア」

左側にいるプラナリアは分裂直後で、頭部がない。しかし尾を後ろにして、餌に向かって突進していった。

餌は週に2度でいいという。そのたびに、水を替えばいい。プラナリアは、容器の壁や底にへばりついているので、水替えも容易だ。水も特別なものではなく、水道水そのままでも、全く問題なく元気だ。この調子なら、どんどん殖えそうなので、いつか授業の実験で使いたいと思っている。(つづく)